



手作り表札の前で中島さん

を提供した専門家集団がいました。公園設計などに携わってきた一級建築士の清水正巳さん(69)は住民の活動拠点となるような集会所の構想をまとめて設計図を描き、業者との交渉にあたりました。自宅が建築現場のすぐそばなので、毎日のように出向き、現場で共に動いたそうです。渡辺脩さん(73)は行政との交渉、契約・登記事務などの手続きを。内田正寿さん(69)は建物内の設備について再利用しコストを抑える提案を。二人とも旧住宅・都市整備公社OBとして経験豊富だったからです。造成工事に予想外の費用がかかり、オーバーした分は会員有志から借り、後に繰越金から戻すことでクリアしました。いろいろな意見がある中、いつも清水さんたちの味方となり後押ししてくれたのが、自治会の主婦の方々。「改めて女性の力って凄いと感じましたね」と清水さん。

この団地住民も70歳以上の高齢者がいる世帯が7割にもなり、集会所の役割が今後期待されます。「60歳か

それまでの経験を地域に活かしたいと、まちなにも保健室を」という発想で、知り合いの養護教員や栄養士、小学校の教諭や保育士、医師、看護師、薬剤師、カウンセラーに呼びかけ、17年9月、西東京市にボランティアサークル「まちかど保健室」を立ち上げました。その趣旨に賛同する会員も年々

街なかの子育て相談所 まちかど保健室

まちかど保健室・事務局
☎042(421)2089 喜田
http://members.jcom.home.ne.jp/
machikado-hoken/



喜田真さん

増えて、乳幼児から思春期までの子育ての方々を対象に、相談活動や学習交流会、講演会などを繰り返して広げています。「お医者さんや相談施設に行くほどでもない。学校の先生にも言いにくい。だけど、ちょっと聞いてほしい。こんなこと相談したいのかしらと思うようなことでも、気軽に相談してみてください」と呼びかけます。基本的には電話で相談を受け、必要に応じて、直接会って話を聞いたり、相談内容に合った専門家に紹介もしています。「お気軽相談といっても、中には重

い内容のものもあり、ご家族がひとりでも悩んでいたのかと思うと、地域にこういう場があることの意義は大きいのではないのでしょうか。まちかど保健室では、年に数回「子どもの学ぶ楽しさ」「食べることの大切さ」「中学生の心」「薬剤師に聞く薬のこと」などの講演会を開催して、学びあい交流しています。また、依頼があれば、その道のベテランである会員を講師派遣もしており、子育てグループでの「生活リズムの話」「赤ちゃんマッサージ」、最近では対象を広げて「子育て講座」なども予定されているとか。

聞くに堪えないニュースが世の中に溢れているなか、子育て・子育てに少しでも手を携えていける関係が結べたらと、まちかど保健室のドアは今も開いています。

「学校の保健室には、体の調子が悪いという子どもが来るほかに、『あーこ居心地がいい』と、ゆったりと座っていく子がいたりした。保護者の方も訪れ、お子さんの様子をじっくり伺うと、安心を取り戻し、自信のある子育てに変わっていく場所もあった」と話すのは、37年間、小学校で養護教諭を務め、平成17年3月に定年退職した喜田真さん(62)。

「この団地にはタヌキの夫婦がやっ



システムキッチンがある室内

5月18日の完成披露の風景



完成した武蔵野団地集会所

とてもしい話

特集 街で聞いた

海外では目を覆うような災害、国内では暗い出来事。でも私たちの身近には心温まることがあちこちに... そんな街の片隅でひろったグッドニュースをお届けします。

積立金と知恵と労力を出し合い みんなの集会所が完成

小平・武蔵野団地自治会

小平市鈴木町1丁目、小平第八小学校の南、ゴルフ場に接する武蔵野団地自治会に、住民パワーを結集してつくった新しい集会所が完成。5月18日には小林小平市長をはじめ、小平第三中学校の吹奏楽部を招いて、完成披露の式典が開かれました。

木造平屋建て約53平方メートルの新集会所はバリアフリーでトイレも車イスで入れます。床はフローリング、壁はすべてスキのムク材が使われ、室内環境に考慮して24時間換気。りっぱなシステムキッチンが設備され、災害時備蓄品や書類保管のための屋根裏収納倉庫も完備。非常時などのため前面は広場になっています。室内のエアコンや湯沸かし器は以前の古い集会所で使っていたものを再利用。新築費用は1080万円。この資金はすべて自治会会員のひと月百円の、14年間にわたる積み立てと会の繰越金で賄われました。設計も煩雑な事務手続き一切も住民の手で行いコスト削減、念願の集会所を自分たちの力でつくりあげたのです。これこそまさに「近所の底力」ですね。

自治会員は291世帯、全住民の

約90%が加入しています。50年ほど前に分譲が開始された団地で、前自治会長の中島省吾さん(73)によると、「窪地のため昔は大雨でも降ると、路の一方は床下浸水になった。道路補修や専用水道の管理など住民で話し合う課題も多かった」とか。

青空集会所を開いていましたが、昭和43年より建設業者からタダで譲り受けた中古のプレハブを移築して、集会所として利用していました。しかし、年月とともに老朽化し、雨漏りや床下破損だけではなく、調べる

と基礎部分も危ないほどでした。そのため、平成3年頃から建て替えが検討され始めましたが、問題は資金面。公的な補助金制度もなく、銀行融資も望めない。となると自力でやるほかない。翌4年から改築資金として1世帯1ヶ月に百円を積み立てることに。この他に一般会計の繰越金を特別会計にまわして蓄え、14年間コツコツと積み立て、平成18年には900万円近くに達したのです。19年の臨時総会で承認され新築決定。それまでの改築検討特別委員会が新築特別委員会に変わりました。このメンバーにはすべて無償で能力



完成を喜ぶ清水さん(左)と渡辺さん

「お医者さんや相談施設に行くほどでもない。学校の先生にも言いにくい。だけど、ちょっと聞いてほしい。こんなこと相談したいのかしらと思うようなことでも、気軽に相談してみてください」と呼びかけます。基本的には電話で相談を受け、必要に応じて、直接会って話を聞いたり、相談内容に合った専門家に紹介もしています。「お気軽相談といっても、中には重

「卓球」の楽しみを

多くの人に 田村秀男さん

「はい、もう一本、しっかり打って」「左足が上がってる、すぐ動けるように上げないで」と卓球台の向こう側から多球練習をコーチする田村秀男さん(63)。レシーブ側は15分間、休みなく田村さんの球を受け続け汗びっしょりです。



体育館内に軽快な球音が響く

東久留米市の青少年センターの体育館には8台の卓球台が並び、50代から80代までの中高年男女30名ほどが熱く、楽しく練習中。この月1回の「ほっとクラブ卓球教室」を主宰しているのが田村さんです。サークル活動ではなく、「卓球の楽しさを多くの人に、上達のきっかけの場を」と1年前、田村さんのボランティア精神で生まれたクラブ。会場予約もプリント刷りもすべて田村さんがやり、参加費無料。午後1時から4時45分までの練習時間内の出入り自由。3時からは質問タイム。他の卓球サークルに所属しながら、レベルアップを目指し



指導に熱がこもる田村さん

て参加している人たちも多いので、和やかな中にも真剣さが漂います。「定年後に始めましたが、体操やジョギングなどと違って、相手がいるから否応なく動かさなきゃならない。全身運動だし、ゴルフに較べて安上がり。今もうはまってますよ」という

「祈り」にこめて伝える平和 「祈り」を読む会

8月になると各地で催されていた朗読劇「この子たちの夏」、東村山市でも視覚障害者への音訳活動をしている「東村山朗読研究会」のメンバーが主になって、6年前から毎年地元でこの朗読劇を開いています。しかしこの台本をつくった演劇制作体

「地人会」の解散で、「この子たちの夏」の台本が今年から使えなくなりました。です。原爆の悲惨さ、平和の尊さを伝える、すばらしい内容だっただけにメンバーの無念さは大きく、今年はどうするか話し合われた結果が「自分たちで東村山独自の台本を作ろう」ということでした。

今年2月から各自での資料集めが始まりました。図書館、インターネットなどあらゆるところから被爆した人々の手記を集め、朗読に合ったも

木村昭彦さん(63)は先日、町田での大会でダブルス優勝に輝いたとか。田村さんは東京オリンピックの時、聖火リレー走者をつとめた経験もあ

のを4、5人のグループを組んで、選びました。こうして「祈り」と題する1冊の台本が出来上がりました。A4判68ページの手作り印刷の本。被爆した少年少女の詩や大人の手記が収められています。

出演者は40代から80代までの男女25名(男性は2人のみ)に加えて、地元中学生、それに高校生も参加。「最初は声がボソボソと通らなかつた子どもたちも、人前で発表することで、見違えるように大きい声を出せるようになり、終わるとやって良かった、と言ってくれます」というのはメンバーの真野朋子さん(48)。

指導にあたるのは30年余の歴史を持つ、東村山朗読研究会の会長でプロの松村範子さん。開催にかかる費用はメンバー各自

る方。中学2年から卓球を始め、会社員時代の40歳過ぎまでは忙しくブランクがありましたが、20年前から再開。現在は16年前に開業した「東京結婚情報センター」(清瀬市)の代表アドバイザーとして多忙な傍ら、趣味の卓球を指導する日々です。卓球を通して生きがい作りに貢献する田村さんです。

事務局 ☎042(493)5805

が5千円から6千円負担。「皆、負担するのは当たり前と思っているようですよ。長いつきあいの仲間ですからね」と野下孝子さん(77)。「平和への祈りをこめて、朗読します。多くのみなさんに伝えたい」とお二人から。

■8月23日(土)15時30分から東村山富士見町の富士見文化センターホールで開催 無料(問)042(396)1982 真野



「この子たちの夏」昨年の舞台より